

子ども支援部会

1. 開催日

令和2年8月21日

2. 参加機関

医療機関、訪問看護ステーション、学校、放課後等デイサービス事業所、障害福祉事業所、行政（市、県）

3. 協議内容

○令和元年度に実施した保護者対象の調査（医療的ケア児の実態把握と支援ニーズ）の報告

・41人の保護者へ配布。26人から回答（回収率63%）

・保護者の主な困りごと

①災害時の避難や避難先での生活に不安

②子どもの医療的ケア児等に伴う精神的、身体的な負担が大きい

③どんな福祉サービスがあるのか分からない

○今後の取り組み

・調査結果等を自立支援協議会へ報告

・協議内容の①は、自立支援協議会の運営会議や定例会議で協議。②、③は部会で協議

草津市自立支援協議会 部会・プロジェクト年間活動報告（様式）

部会・PJ名	子ども支援部会	報告者	倉田
部会長	定めていません。		
副部会長	定めていません。		
参加機関 委員	県立小児保健医療センター（柴田氏）、県自立支援協議会（大平氏）、びわこ学園（村井氏）、よつば訪問看護ステーション（谷口氏）、放課後等デイサービスゆにこ青地（稲葉氏）、児童発達支援・放課後等デイサービスちょらんど（多久島氏）、放課後等デイサービスあおぞら（上野氏）、障害者福祉センター（雪吹氏、寺嶋氏）、草津養護学校（平岡氏）、草津保健所（有村氏）、草津市子育て相談センター（小花氏）、幼児課（柳原氏）、児童生徒支援課（木村氏）、障害福祉課（木野氏）		
事務局	草津市発達支援センター（小林所長、河野相談員、倉田所長補佐）		
活 動 報 告			
令和3年度のねらい	医療的ケア児の実態把握や支援ニーズの調査結果の報告や今後の取り組みについて協議		
回数	開催日時	概 要	参加数
第1回	令和3年 7月16日 10時～11 時30分	<p>【テーマ】①調査結果と今後の取り組みについて ②保護者への情報提供について</p> <p>【会 場】市役所8階会議室</p> <p>【内 容】調査結果のまとめを報告。保護者のニーズとして、1. 支援の情報提供、2. 子育ての負担軽減、3. 災害時の避難等の不安の3点を報告今後の取り組みについて協議。</p>	機関数 15 人数 17人
第2回	令和4年 1月26日 10時30分 ～12時	<p>【テーマ】①医療的ケア児等コーディネーターの役割 ②医療的ケア児等とその家族への支援ガイドブックの作成</p> <p>【会 場】令和3年度第2回報告日時：令和4年1月26日実施</p> <p>議事：①医療的ケアコーディネーターの役割 ②医療的ケア児等とその家族への支援ガイドブックの作成 ③今後の子ども支援部会について</p> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18歳に達する医療的ケアが必要な児童と家族に対して、支援にかかる情報提供や相談支援を行う。ケース会議や個別ケースを通じた地域課題を把握し関係者会議や部会等で協議する。 ・子育て相談センター、訪問看護ステーションと連携しながら、対象児を早期に把握し、支援の情報提供や相談支援を行う。 ・福祉サービス以外にも、就園、就学等について行政、保育所、学校等の関係機関と連携して相談支援を行う。 	機関数 9 人数 12人

		<p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に乳幼児期から学齢期にかけて支援の制度や相談機関等を掲載して早期に保護者へ情報提供を図ることを目的に作成中。令和3年度に内容をまとめ、次年度に自立支援協議会でも報告予定。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、子ども支援部会では医療的ケア児の協議を行っているが、次年度、放課後等デイサービス事業所で日頃の支援や制度にかかる情報交換や研修企画を協議するため、新たに子ども支援部会に加わる予定。子ども支援部会を①医療的ケアの協議、②放課後等デイサービス連絡会で構成していく予定。 <p>【場 所】オンラインと市役所2階会議室</p> <p>【内 容】①医療的ケア児等とその家族に対して、支援にかかる情報提供や相談業務を行う。その他、ケース会議や個別ケースを通じた地域課題を把握し関係者会議等で協議する。②主に乳幼児期から学齢期にかけて支援の制度や相談機関等を掲載して早期に保護者へ情報提供を図るためのガイドブック（案）を説明。会議の意見を参考に作成を進める。</p>	
--	--	--	--

医療的ケア児の実態把握等に係る調査概要

1. 調査の目的

草津市内の医療的ケア児の実態や支援ニーズを把握し、必要な施策につなげていくために調査を行う。

2. 調査の実施主体

- ・草津市障害児（者）自立支援協議会 子ども支援部会
- ・草津市子ども未来部発達支援センター

3. 調査の対象者

- ・令和2年2月1日に草津市内に在住する0歳から18歳の医療的ケアが必要な児童

医療的ケア児とは、自宅や保育所、幼稚園、こども園、学校等で日常生活を営むために以下のような医療を要する状態にある子どもをいう。

- ①人工呼吸器の使用 ②酸素療法 ③吸引 ④気管切開部の管理（ガーゼ交換等）
- ⑤中心静脈栄養 ⑥経管栄養（経鼻・胃ろう・腸ろう） ⑦膀胱カテーテル
- ⑧自己導尿 ⑨人工透析（血液・腹膜） ⑩人工肛門 ⑪自己注射（糖尿病）
- ⑫鼻咽頭エアウェイ ⑬吸入等

4. 調査の実施方法

市の関係課や幼稚園、保育所、こども園、学校から保護者へ調査用紙を送付。
回答後は、保護者から発達支援センターへ返送。

【調査概要】

番号	調査の内容
問1～問3	対象児の状態像について 基本情報、日常生活の状況、医療的ケアの内容
問4	医療的ケアを実施している方について（健康状態、就労の有無等）
問5	医療受診について
問6	医療保険や障害福祉サービス等の利用について
問7～問10	幼稚園・こども園・保育所、学校等の医療的ケアについて
問11	子どもさんの心配事の相談について
問12	災害対策について
問13	困りごとや要望について

6. 回収状況

配布対象児童数	回答数
41 人	26 人 (63%)

2. 調査結果の概要

(1) 年齢内訳

回答者（26人）の年齢の内訳は、多い順に「3歳」「11歳」が5人、「7歳」「8歳」が2人であった。

年齢	0歳	1歳	3歳	5歳	7歳	8歳	11歳	12歳	14歳	16歳	未記入	合計
人数	2	2	5	2	3	3	5	1	1	1	1	26

(2) 医療的ケアの内容の内訳

回答者の「必要な医療的ケアの内容」の内訳は、多い順に「口腔・鼻腔などの吸引」が19人、「経管栄養」14人、「気管切開」12人であった。

医療的ケアの内容	経管栄養	気管切開	人工呼吸器装着	導尿	在宅酸素療法	口腔・鼻腔などの吸引	その他
人数	14	12	11	4	7	19	2

※人工呼吸器装着には夜間のみ4人を含む。

(3) 独立歩行の可否の内訳

回答者のうち「独立歩行可能」である回答者の割合は、可能が35%（9人）に対して、不可能が62%（16人）であった。

可能	9	35%
不可能	16	62%
未記入	1	3%
合計	26	

(4) 重心認定有無の内訳

回答者のうち「重心認定を受けている」回答者の割合は、有りが50%（13人）に対して、なしが42%（11人）であった。

有	13	50%
無	11	42%
未記入	2	8%
合計	26	

(5) 利用サービスの内訳

回答者のうち「利用サービス」は、多い順に「訪問看護」が17.9% (15人)、「訪問リハビリ」14.2% (12人)、「放課後等デイサービス」「レスパイト入院」9.5% (8人) となった。

種類 (A)			(A) の内訳		
保育所等	4	4.8%		4	4.8%
医療	38	45.8%	訪問診療	5	6.0%
			訪問看護	15	18.1%
			訪問リハビリ	12	14.5%
			訪問歯科	6	7.2%
日中活動系の障害福祉サービス	18	21.7%	児童発達支援	4	4.8%
			医療型児童発達支援	3	3.6%
			放課後等デイサービス	8	9.7%
			日中一時支援	1	1.2%
			障害者デイサービス	2	2.4%
在宅系の障害福祉サービス	9	10.8%	居宅介護 (身体)	6	7.2%
			居宅介護 (通院介護)	1	1.2%
			訪問入浴	2	2.4%
短期入所、レスパイト	14	16.9%	短期入所	6	7.2%
			レスパイト入院	8	9.7%
合計 n=83	83	100%		83	100%

(6) 困りごとや不安に思っていることの内訳

困りごとの内訳		人数	
1. 障害福祉サービスについて	一時的に預かってくれるサービス	13	9.1%
	日中活動系のサービス	4	2.8%
	在宅系の障害福祉サービス	5	3.5%
	移動や送迎に係るサービス	4	2.8%
2. 保育施設や学校生活に関すること		10	7.0%
3. 医療機関の受診について		27	18.9%
4. 保護者の就労や負担について		8	5.6%
5. 相談窓口、情報について		28	19.5%
6. 災害の対応について (避難場所等)		22	15.4%
7. 子どもの体調について		11	7.7%
8. その他		11	7.7%
合計		143	100%

令和4年度

部会・PJ名	子ども支援部会 (障害児相談支援体制検討プロジェクト)		報告者	倉田
PJリーダー	園田氏(草津市心身障害児者連絡協議会)			
副リーダー	中村氏(おひさまはうす)			
参加機関	(コアメンバー) 障害者福祉センター、おひさまはうす、障害福祉課、発達支援センター			
事務局	障害者福祉センター、発達支援センター			
活動報告				
R4年度のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・草津市相談支援体制検討プロジェクト(令和4年度報告)において、別途協議を行うこととした、児童の相談支援体制の現状、課題、今後の対応について協議 ・プロジェクトによる検討を開始する前に事務局が児童の相談状況を共通理解するためコアメンバーによる会議を実施し、検討の論点整理を行う。 			
回数	開催日時	概要(コア会議)		参加数
第1回	8月31日 (10時～11時半)	【テーマ】 プロジェクトの実施に向けて協議 【会場】 おひさまはうす 【内容】 リーダー、副リーダーの選定 児童の相談支援の特徴 プロジェクトのメンバー、内容		機関数4 人数6
第2回	10月20日 (9時半～11時半)	【テーマ】 発達支援センターの事業から児童の相談支援について共通理解する 【会場】 障害者福祉センター 【内容】 児童発達支援センター (児童発達支援、保育所等訪問支援、障害児相談支援) 一般的相談(乳幼児期から成人期) 障害児通所支援の支給決定		機関数4 人数6
第3回	12月21日 9時半～	【テーマ】 発達支援センターの事業から児童の相談支援について共通理解する 【会場】 障害者福祉センター 【内容】 発達支援センターの一般的な相談業務(就学前、学齢期)の体制、現状、課題等 <ul style="list-style-type: none"> ・今後、相談内容に応じた担当窓口の資料を作成し確認 		機関数4 人数6

【令和4年度のまとめ】

- ・コアメンバーによる会議では、主に発達支援センターの相談支援の体制や課題等について共有し、相談業務の根拠法令(発達障害者支援法や障害者総合支援法)について確認した。
- ・児童の相談支援体制について、R2～R3年度に検討した障害者のプロジェクトと同様に、障害福祉における3層構造の視点で協議することも良いのではないかと。
- ・学齢期は、学校の特別支援教育にかかる発達支援センターの相談状況や課題を教育委員会とも共有することが必要である。
- ・ライフステージに応じて子どもの所属や相談機関が変わることもあるので、支援機関がどこにつながると良いか共通理解できると良い。

医療的ケア児支援にかかる実務者会議

【開催日時】 1月25日 13時半～15時（発達支援センター）

【参加機関】 訪問看護ステーションちょこれーと、児童発達支援事業所おひさまはうす、子育て相談センター、障害者福祉センター（基幹相談支援コーディネーター）、発達支援センター

【内容】

- ・医療的ケア児等コーディネーターの活動報告
- ・児童発達支援へのつなぎや、障害福祉サービスの利用について

草津市放課後等デイサービス連絡会

市内事業所の横のつながりを深め、質の高いサービス提供を進めるため交流会と研修会を実施

情報交換交流会	日ごろの運営や制度対応等について意見交換を行った。 【主な内容】 ・長期休暇中の活動内容、大雨の時の送迎対応、保育所や学校等の関係機関との連携について	4/21、6/9、 7/12、9/15、 11/18、 1/22、3/14
研修検討会議	研修会の企画や実施について協議 【主な内容】 ・年2回の研修会の企画、実施後の意見交換を行った。 ・研修会では、①平日や長期休暇の取り組み、②性教育、思春期の過ごし方、③学校や児童発達支援等との連携をテーマにグループワーク形式で研修を実施	会議 5/20、7/12、 10/11 研 修 会 6/24、9/20

7/12は2つの会議を合同で実施。

事業所説明会	市民を対象に制度説明や事業所とサービス内容について質疑応答の機会を設け、サービスにかかる情報提供の機会とする。	10/3 47名の保護者が参加
--------	---	--------------------